（三十日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭日　第一第三日曜
定價　一部二錢　一ヶ月六十錢　郵稅十五錢
廣告料　壹行六十錢　指定廿錢增
發行兼編輯印刷人　藤沼[illegible]
福島縣平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社
電話[illegible]番

賣名的僞作家 正木朝夫氏に寄す（下）

矢野輝

（そし夫の父朝之は丁度とし夫が生れる一ヶ月ばかり前に二十五才を最後に文學に秀才を認められながら傳統的肺病で死んで行つたのである）

幾子　貴方、貴方、なぜ貴方はこんな可愛い坊やを拾てゝそんな遠くへ一人ぽつちでいつてしまつたのです、歸つて下さいませ、お願ひですから歸つて坊やに逢つてあげて下さいませ、坊やは貴方にお父さんに逢ひたいとないてゐるんですのに早く〜逢つて下さいませ、お願ひです、坊やが可哀想ですわ、なにも知らない坊やが

（夕闇を告げる鐘の音が曠野を越へて死線にさまよう母子の身元にどこからとなく聞えて來た、幾子の身餘は吾子を抱いたまゝ白布の如き雪の上に倒れたのであつた、それは空腹、寒氣、悲哀の極致であつた）

（通りかゝつた田舍人の藤吉た照の夫婦の愛の力によつてとし夫のみが意識を回復したけれども夫を慕ひ狂ふ幾子は愛しき吾子を只一人殘して白蓮咲き競ふ夢の國へ旅立つた　（終り）

以上題目の相異れる戯曲二品發表爲し諸兄御批評が同時に何ものかを正木氏に與へたいと思ふのである

自分は最後に斯く云ひたい

正木氏作の戯曲中登上人物中朝之、藤吉、た照の三人は無用者ではないかと思ふ

朝之は過去の人間で有り、藤吉、た照は通りがかりの人間で有れば他により良い考へを爲して表した方が餘程良く出來たので有ることは正木氏自作として有るか眞實の自作でない事を立證にこれ丈けでも判る事である。

折にふれて

三瓶　文吾

牡丹の花　うなだれて咲いて雨瀟々

木蓮散つて、禪寺の眞晝

池の鯉しきりにはねる　むし暑い黄昏

顔の大きな痣　夢なれど何故か怖ろし

工夫等の鶴嘴は五月の陽にギラリと光つた

目覺むれば陽に輝く桐の大葉は嬉し

白いパラソルの動く　緑の原つぱ

巷の雜音をなつかしむうつろな心

行きすぐる自働車カツと痰を吐いた菜つぱ服

工女等さんざめいて夏のショーウインドウに見入つてゐる

夏蜜柑プンと鼻をつく夜の果物屋

晩春賦

杉本　橘月

麗かに春の日影の流れたる　山家の椽に足の爪むる

湯上りをしばし椽にて見る月の　朧の影は靜かなりけり

雛人形背負ふてからだ振りながら　唄ふ子供の姿いぢらし

春の宵すれちがひたる湯上りの　女の髮のすが〜し香よ

うたかたの浮世と知れど凡人の　吾ぬにとげざる春ぞ淋しき

明日の吉凶

新暦五月三十一日
舊暦五月四日

▲一白の人　巡り來れる幸運逸せざる樣に努力あるべし▲二黑の人　蹉跌を生じ易き日故なるべく內を守るべし▲三碧の人　迷雲眼前に横はりて行くての定まらざる日▲四綠の人　氣心に落つきを生じ來る日急がば廻るべし▲五黃の人　行違ひの生じ易き日何事も手控するが安全▲六白の人　その他位に安んじ日課を怠らぬ樣にすべし▲七赤の人　小を得て大を失ひ易し進むより守るが無事▲八白の人　知つた振より不慣の事を持込れ難儀する日▲九紫の人　張合ひよく事業の進み行く日但し飲食注意

講談

幕末奇傑 高山彦九郎

(149)

中西洋々作
市施長春畫

愛宕山の會合（四）

その常陸介の云ふところでは、現在、盡忠正義の念慮のあつい國々は、水戸と上杉家の二藩よりないと云ふことでした。

彼の長年の巡遊によつて得た智識では水戸の長久保赤水と上杉家の林子平、との二人が最も進んだ智識をもち、意見を內に藏してゐるといふことでした。

殊に、長久保赤水に至つては、日本國內の津々浦々まで、その地名を知らぬところはなく、わけて、山岳の所在に明るいことは、正に國內無双といふことでした。

「まづ以て、これらの御人には、是非一度、御面會なさるゝがよろしい」常陸介はまたかういつてすゝめました。

「ときに、貴殿は、今後どうなさるたつもりでござる」

常陸介は、別れに際してあらためてかうたづねました。

「しばらく江戸に滯在して幕府の政治振りを見て行く考へでムる。」

彦九郎はその思ふところを述べました

「ふうむ、いや、それもよろしからう」

常陸介も二もなくうなづいて

「それでは明秋、京に於て再び御面會申そう」から再會の約束をして、二人は左右に袂を分ちました

宿に皈つて一人になつた彦九郎はふと思ふともなく十五六年前江戸に遊んだときの親友、塚本相之介のことを思ひ浮べました

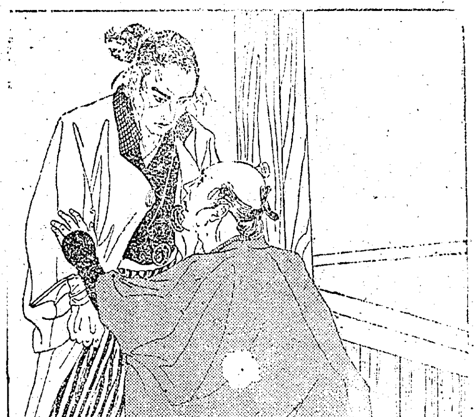
「おゝ、そうだ、あの時塚本を討つた下手人は今頃どうしてゐるであらうか」

思へば長い間の月日でした

彦九郎が、相之介殺害の犯人に相違ないとにらんだ旗本菊地源之丞はその后どうしたらうか。

あの頃、三十五六の武士といへばもう五十の坂を越した老人になつてゐるにちがひない、思ひ出せばまだ涙の種でしたが、しかし今はその相之介の仇敵たる旗本を怨む心よりも、むしろその全般に對するにくしみ——ひいては將軍家に對す、呪咀の方がより大きい彦九郎でした。ともすれば血氣にはやらうとする心をぢいつとおさへて冷靜に、國事の爲に奔走せん誓ひを新たにするのでした。その中にも、彦九郎は宿の一室にとぢこもつてばかりはゐませんでした。

毎日のやうに、西に東に江戸市中を闊歩して、幕府秕政に泣く民の聲を耳にきゝ旗本横暴のさまを一々に見て歩きました。それは江戸滯在、一月程のゝちでした。或日、その日も例に依つて江戸市中の巡視を終へて宿に皈つて來たとき、そこには意外の客が彼を待つて居りました



「や、そちは、甚作」、「おう、これは旦那さまで」

その客といふのは正しく彼の恩顧をうけた甚作でした。旅裝束ものしいその姿でやにはに彦九郎にすがりつきました

「これ、なんとしたのぢや、しつかりせい」

そのあまりに慌しい樣子から、不吉な豫感におびえて彦九郎にたづねかけました。

「旦那樣、しつかり遊ばして下さいまし」甚作の方から、かへつてはげましの言葉をかけて云ふのでした

「旦那さま、實は、大旦那さまには御重病でございます」

「えッ！何？」彦九郎は愕然として問ひ返しました

吉田眼科醫院

紙上相談

老眼は直るか

眼鏡で矯正する

一、當年三十五歳の男子老視眼で困ります、新聞を見るのにも老眼鏡をかけなくてはよく見えません、老眼は直りますまいか、その原因療法を御教へ下さい、尤も只今輕い神經衰弱にかゝつてゐます。

二、不斷「セキ」が出て困ります、が原因療法をお教へ下さい、氣管支が惡いのでせうか、（平凹生）

一、老眼、老視眼は治する事、[illegible]以て矯正するのです、貴下は三十五歳としてはまだ老視眼になる筈はありませんから元來の遠視眼の處へ神經衰弱を合併して眼の調節力が衰へたゝめに煩惱が著しく感ぜらるのでしよう、遠視眼には夫れに適當した眼鏡をかけ神經衰弱はなるべく早く治す樣にしたらよいでしよう、神經衰弱の療法としては醫師の治療を受け服藥するは勿論自身でも身体、精神を安靜にして精神の興奮を避け少眠症なら催眠藥を用[illegible]新鮮なの空氣中にあり冷水摩擦等を行ひ攝生を守る事が肝要です

不斷「セキ」の出るのは慢性氣管支加答兒のあるためでしよう、これは醫師の治療を受くるか左程でなくば日常新鮮なる空氣中にあつて風邪等を引かぬ樣注意を要し且は膚を強健にするため冷水摩擦法等を行ひます、又温泉療法即ち鑛泉地帶へ轉地等するのも好影響を與へます

眼性が惡い

速に專門醫へ

私は十四歳の少女ですが幼時より眼質が惡くこまつてゐます眼病は片方ですが眼瞼が炎症してゐます亦盛んに涙が出ます、止めどもなく出るのですいつたい涙の出るのは眼にどんな異狀があるのですか脂肪の足りないからでせうか別に小學校で体格檢査にもトラホームといはれた事もないのです自分も隨分衞生を重んじてをります然し過度な勉強をすると何見にくいのです誠に濟みませんがこの双病と治療法を御教へ下さい妻蓄とかいふ藥は効能が有りませんか　（病める一女）

あなたの眼性の惡いと言はるゝのはドンナ具合なのですか分りませんが多分眼の緣が糜爛して涙液が流出してゐる樣に思はれます眼瞼緣の糜爛は涙液が絕へず流出してゐればその刺戟にて瞼緣の糜爛を起します涙液が眼外に流出するのは眼元より鼻腔に通ずる涙液の排泄管即ち鼻涙管が何かの原因にて狹窄又は閉塞してゐるからですこれは器械を以て擴張して疎通を計れば涙液は鼻腔へ排泄される樣になり從つて眼外の涙液の溢るゝ事がなくなります、速かに專門醫の治療を受くるがよろしい

ヒゲタ醤油
特約店
平町田町
廣瀬支店
電話五四番

最新流行
各國時計
ユビワ
眼鏡類
特安賣
平町土橋通り　高橋時計店改メ
精幸堂時計店
店主　高橋幸

夜間診療
胃腸
內科
十二指腸虫病
專門
內科部
梅毒
淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

平町田町
高久病院
電話五一〜三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽淸
藥劑士　佐竹菊雄
內科小兒科、
外科花柳病科、
耳鼻咽喉科、
レントゲン科

內臟外科
整形外科
醫學博士　藤本順
產科
婦人科
院長　木村寅次郎
平町新川町
電話一〇四番
木村病院

無料檢眼　TOKIWAYA
皆樣の御眼にピツタリ合つた
眼鏡は……
專問醫師の
檢眼で……
正確で工合よい
時計は……
是非當店にて……
平　壹　常盤屋時計店　電三三九

春夏向の
小供洋服生地と
新柄レース一寸巾から二尺巾まで
澤山入荷致しました
婦人手芸材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

磐城炭礦。最優等炭
◎石炭　正味十貫目　一俵金六十錢
東京瓦斯コークス一等品
◎コークス　一俵金一圓廿錢
木炭代用。無煙無臭。家庭用炭
◎玉炭　一箱金貳圓也
石炭ハ目方ノ正確ヲ期スル爲メ正味十貫目ヲ一俵ノ標準ト定メマシタ
配達迅速（電話一三七番）
磐城炭礦販賣總代理店
阿部石炭商店

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平長五〇七番

健康第一
健康は胃腸から
ホシ胃腸藥
クスリはホシ
星製藥株式會社

今度は仁井田から
出し拔きの苦情
いよ〳〵紛糾して來た
四倉の角網問題

四倉漁業組合の角網漁業に對し又々地先を同じくしてゐる南隣の石城大浦村大字仁井田濱漁業組合から反對の火の手があげられた北に久之濱、南に仁井田及豐間の共同戰線を敷かれた四倉角網は全く重圍に落ち今後免許地點である千九百四十間より沖出し網入れするにおいては一層紛糾を强むるものゝ如く殊に久之濱及豐間は等しく沖出しする事によつて騷ぎ立てる事の不利な立場であるが共同戰線にある仁井田濱は直接その事によつて縣の取締にたびねぬ立場にあるので同濱をして今後四倉角網の不正行爲に對し縣へ陳情せしむる事となつたからたとへ表面は免許以上に沖出する事に久之濱が騷ぎ立てなくもこれに代る仁井田濱のある以上四倉角網の前途何あん如たるを許さないものがある

擴張員縊死
平の男茨城で

平町四丁目新聞擴張員阿部庄吉(四八)は數日前から茨城縣下に擴張のため出張中行衞不明になつてゐたが二十九日朝同縣多賀郡南中郷村字足洗地內の松林の枝に細紐を吊るし縊死してゐるのを通行人が發見屆出たので松原署員が出張檢視した旨同日夕刻平署に通知あつたので家人が死体引取りのため出張した原因調査中

商工課長が來て
仲裁に斡旋
容易に纒まり相もない
平町の魚屋騷動

平町に於ける魚市場問題は縣が石城鮮魚商組合取引所に對し鮮魚の取引休止を命じた爲め一先づ解決を見た譯であるが鮮魚商組合では直接生活を脅威するものであると營業の繼續方を陳情し更に問屋の形式に依つて營業を續けることを願ひ出てゐるので縣としても多年鮮魚商の死活問題であるから簡單に之を取扱ふ譯にもゆかず魚市場と鮮魚商との間を圓滿協定させ事件を解決させる意向の下に野上本縣商工課長は來る四五日頃に來平することになる由であるが商工課長が如何なる調停案を示すかは頗る注目されてゐる

前衞文學の彈藥化

平町　藤村剛

A。文學を捨てることと

われ〳〵は文學（廣く藝術）をいきなり捨てなければならない。文學は今やわれ〳〵に必要ではないのだ。その「必要」と云ふ意味で文學はわれ〳〵の前にすつかりその價値を失つてゐる。

何故、無價値か？

何故、不必要か？

答へやう。われ〳〵はそれに對して構想する丈けと玩味する丈けの餘裕を持つてゐないし、持つことはゆるされないからである。

何故、ゆるされないか？

解り切つたことぢやないか すなはち、われ〳〵の世界は創られつゝあるので、まだ創られてはゐないと云ふことだ。そこでわれ〳〵は勿論　綠の森を捨てる、書齋を捨てる、カフエーのエロチズムを捨てる、銀座を捨てる、アメリカを捨てる、そして文家をいきなり捨てるのだ

B。捨てた文學に對して

しからば捨てた文學に對してわれ〳〵は何を求めやうか？その前にわれ〳〵は次の數行を考へる。それを構想する玩味すると云ふことは全て「書く」こと「讀む」ことゝ同意であると云ふことではない。われ〳〵はむしろその「書く」こと「讀む」ことを安閑な靜止狀態に求めるのでなくして、張りきつた鋼鐵の樣な變革（社會形態）過程に求めることだ。われ〳〵は前者的な文學を捨てゝ、後者的な文學を高く持たねばならぬ。で、それを簡單に言ひつくさばその與へられた役割を完全に演すればいゝ丈けにつきるそうだ、それを最も尖銳な「武器」に迄妥協、否同化させればいゝのだ。したがつて、プロレタリア文學の政治的とか藝術的とか因數視された價値問題もすこぶる簡單に分解されるわけである。

C。前衞的方向から

最近小林多喜二氏が「レポート」文學提唱の下に彼の「蟹工船」貴司氏の「ゴーストップ」德永氏の「太陽のない街」をいさぎよく捨てゝゐる。

理由にはかうだ、直接には單なる「説明」化に過ぎない「わい曲」化に過ぎない「卑俗」化に過ぎないであるが、具体して言へば三者のそれ〴〵が皆うそがあつて眞がない、亦「ルンペン」があつて確たる方向がない、誇張があつて力がない、即ち社會的（此の語は甚だ弱いが）價値が皆無だと云ふことだ。次に彼は結論して「文學」は田園、炭山、工場の鍬からツルハシからハンマアからの「報告」だけでいゝと言ふ、そこで此れはわれ〳〵の最も前衞的な方向であるとわれ〳〵は言ふことが出來る。われ〳〵は何も文學（作品）の藝術性を永遠性を拒絶しやうとするものではない。亦いつかは此れ等のラヂカルな方向がその老衰狀態をばくろするであろうことも考へないではないが、現在のわれ〳〵現在の文學（プロレタリア）との立ち場をかへり見るならば、此の方向以外の問題は當然考へ得べきことではない筈である。

D。武器的方向へ

武器の概念を此處で述べやうとするものではないが小さな「石つころ」は好い意味で大衆的な武器だと云ふ。それは「石つころ」の武器的質と量とがプロレタリア大衆のそれに接近するからである。武器の説明はそれにつきたことにして、勿論武器は常に闘爭をはらみ、亦闘爭の同伴者たり得る。ブルヂアジー資本主義に對してプロレタリアートがマルキシズムを持つに何の詭誤はない、それはプロレタリアートによつてよりよき武器であるから。

でわれ〳〵が文學を彈藥化に迄引き下げたとしてそこに何んの不思議があるだろう、若しあるとしたらそれは資本主義のブルヂアジーと共にあちら側にだ。

駄言は拔く。

「レポート」文學は當然（時間的に相當なギヨ離はあるであろうが）その「武器」文學に迄到らねばならぬだろう。一言で終れば、各方面からの報告は終つた最早標的はせん明であるわれ〳〵は、

彈藥へ!!

スローガンへ!!　だ（完）

繼母傷害公判
懲役一年言渡し

石城郡湯本町大字八仙入山炭礦三五號長屋居住金太郎長男中畠武雄(二二)に係る去る三月四日繼母橋本なつ(四六)の酷遇を憤つて手斧をふるつて前額部に斬りつけ昏倒せしめた之を制止せんとした實父金太郎(四五)の後頭部にも斬りつけ瀕死の重傷を負はせた繼母殺し未遂事件公判は二十八日午後一時半から平支部中島裁判長係り開廷武雄には殺意なく傷害罪として懲役一ケ年の判決言渡しあつた尙武雄は不服で控訴する模樣である

鮫川誇揚會
船遊客を歡迎

植田町外錦村大倉鈴木林氏の主宰する鮫川誇揚會ではいよ〳〵水に親しむ節となつたので例年通り地曳網と舟あそびの準備を整ひたが一日人々中食付一圓で商店會社、組合等の慰勞會等二十人以上の團体には特に割引きすると

石灰硫黃合劑で
果樹の病害驅除
石城郡下に奬勵

石城郡下の果樹は農家の副業として最も適好なものであるがこの果樹の栽培と共に病虫害の侵害も近來益々甚だしくなつてゐる、そして之が豫防驅除法としての石灰硫黃合劑が盛んに利用されてゐるに依つてこれが使用法に就て以下少し述べて見ん、即ち石灰硫黃劑果樹の貝殼虫の驅除其他の病菌による被害の防除等には最も有効なもので果樹栽培者の必需藥劑であるが間々その使用に過誤があるから果樹栽培者は充分これが留意を必要とするのである

一、本劑は酸性鹽類を含んだ水や又酸性の水で稀釋すると分解を起し、藥效を減ずるから純良の清水を用ひる樣にし、それに使用する器具類も曾つて用ひたものは能く洗滌した後に使用せねばならぬ

一、冬期の撒布には晴天を選ぶがよいが、夏期には曇天の時がよい

一、本劑を撒布する前には枯枝、枝幹に付着したる土壤などは奇麗に落した後にするがよい、土壤の中には害虫の潜伏してゐる藥液が逃れるのが少くない

窃盜詐欺犯
懲役十ケ月求刑

福島市內の料理店で無錢飲食をなした外數ケ所で窃盜橫領等を働いた石城郡平町一の三二生れ當時住所不定佐藤幸七郎(三五)に係る窃盜橫領、詐欺事件の公判は二十九日午後一時より福島區裁判所法廷で石田判事係遊田檢事立會の上で開廷檢事は懲役十ケ年を求刑した判決言渡しは來る六月五日である

古河炭礦の
選手豫選
節句に大相撲

石城郡好間村古河炭礦では來る六月一日(舊五月節句)をトし体育奬勵の意味で從業員の相撲大會を開き優勝者には下野所長並に兩係長の優勝カップを授與する筈であるがなほ當日常磐炭礦陸上競技大會の選手豫選會を催す筈

玉山旅館に
怪賊
四倉署搜査中

大野村玉山湯の澤藤屋旅館事高木勝太郎宅に廿七日午前〇時頃賊忍び入り宿泊客の黑澤金吾(五七)の枕元に有りたる金三十餘圓入り財布を窃取逃走せる事屆け出でにより四倉署で犯人嚴探中であるが同湯の澤旅館石屋方に十日程宿泊せる男が其の晩宿泊料を踏倒し逃走せる者有り或は其の男の處工ではないかと嚴探中である

おかめ誘拐の
男を放還
證據は不充分

平町字田町藝妓家竹の家方藝妓おかめ事植田よし(二〇)を連れて昨年十一月逃走した福岡縣生れ東京市麴町區富士見町居住自稱辯護士森友秀雄(二八)は平署で誘拐詐欺その他の嫌疑で取調べをなし更に十日間の拘留に處し證據蒐集につとめたが結局物になり相もないので書類だけを檢事局に廻付するらしい

青梅の中毒
高久の小學生

石城郡高久村上神谷作鈴木粂吉孫代吉(一〇)は去る二十七日午後一時ころ學校の歸途青梅二つ三つもぎ取つて食したが中毒を起し吐血し手當を加へたが二十九日に至り生命危篤に陷つた

けふ四倉驛附近で
女の鐵道自殺
原因は發作的精神異狀か
胴体眞つ二ツ

（四倉支局電話）三十日午前十一時三十五分四倉驛より列車が同驛を去る北方約十町位の地點に差かゝるや四十歲前後の女が飛込み自殺を企て胴体眞二つに轢斷され見るも無慘の轢死を遂げた、急報により四倉署より係官出張檢死の結果此の女は大野村大字下柳生木田市重の妻みや(四〇)と稱し原因調査中であるが同人は十日程前から頭が痛いとて休養中二十九日午後漂然家出したので發作的精神異狀からであるらしい

平署管內の
自動車協會

平署管內自動車協會總會は廿九日午後二時半から平署會議室に於て出席三十餘名を以て開催、荒井署長議長席につき既報の議案につき協議午後五時散會した

◁◁◁◁◁犬になりたや
とのさまぐらし
一日一圓を下らぬ費用
平町の闘犬熱

平町には近來闘犬熱が非常に高まり始め毎月一回乃至二回愛好家に依つて平町南町加藤氏所有の馬場で闘犬試合が催されて居るが現在平町には土佐種の犬が二十四匹ぐらいで此の價格は八十圓から百二三十圓ぐらいのほか本種のブルドックが十四程ぐらいこれは五十圓から百圓程度のものである處が之れ等の闘犬の一日費用は三十錢乃至七八十錢ぐらいで試合十日前頃からは充分榮養させる關係から一日一圓ぐらいの費用がかゝると言う事で貧民街の生活が五十錢で親子三人の粥口をしのぐのに比較したら是れ等の犬は事實殿樣暮しである普通是等の犬の壽命は十年ぐらいのところで原價償却してその利子と一日の食費とを合算すれば既に一日一圓となるので大の男一人の一日の汗の結晶たる賃金とこれ等好奇者連の犬の費用とが同一だとは殊に不景氣の折柄祕み〳〵歎嘆しない譯に行かぬ有樣である

古河と平遞友
野球試合
兩軍のメンバー

古河好間炭礦野球部と平遞友クラブの野球試合は來る六月一日古河グランドに於て行ふ筈であるがメンバー左の如し

△古河軍
本坂木崎ゝ邊槻　賀
松原下鈴島井渡大　間　志
(投)(補)(一)(二)(三)(遊)(左)(中)(右)

△平遞友
野井塚田神藤邊弟兄
母　部部
小酒赤富田伊渡阿阿
(投)(補)(一)(二)(三)(遊)(左)(中)(右)

落磐坑夫慘死

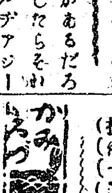
磐崎村藤原炭礦小野田坑々夫小塚直三郎(三九)は二十九日午後七時頃入坑作業中落磐の爲め慘死した

石城の春蠶は
二割增收確實
初繭は十日頃か

石城郡下の春蠶兒は連日の好天候で發育頗る順調で桑も充分な發育を見せてゐるゝめ前年より約二割方の增收を豫想されてをり茲四、五日中には速くも上簇を見る模樣であるから平窪、小川方面の早蠶地は來月四日ころから出廻るものと觀られるに至つたので四倉繭市場も例年より開場を繰り上げて遲くも六月十日までには開場の豫定で準備を急ぎ更に植田、勿來の兩市場も同樣十日ころまでには開場するらしい

盆栽書畫品評

好間村古河炭礦小館クラブに於て來る六月一、二の兩日盆栽並に書畫の品評會を開く



◆湯本よりいつかお棚で推奨した千代萬の「おもちや」は藤間勘繁の名取である事は天下周知の事實だが愈々稽古シーズンが訪れたとあつて遙々師匠の松本幸四郎事藤間勘右衞門さんを訪ねて江戸上りとあり確か昨夕あたり出發した筈である◆處で此の「おもちや」何をどう考へたのか出發に際してはシコタマ土產品を買ひ込んだ上今度は二人連れで上りだと盛に宣傳して歩いたものである、たゞこのた上りさんの相手役は何者であつたか、かみくづ子不幸にして聞きもらしたがたつけ稽古の便りと共に御紹介申上げる事が出來るであらうから、ご心配これなきやうそれまでは預かりとして先づは御披露の口上サヨー。

時言

□

差支ひなしの折紙をつけて許可した四倉角網に四方八方から猛烈な反對

□

次ぎに現はれましたのが仁井田漁業組合、之れまた反對依而如斯

□

縣當局責任を知れ、許可權の威信何處にありやと云ひたくなる

□

商工課長が來て、魚屋騷動の仲介斡旋

□

筋書き通りに成功したら先づ誰れよりも市場が喜ぶだろうヨ

六月一日ヨリ
夏物新製品大賣出し
涼味溢るゝ今夏の流行品を
各種豐富に取揃へて
品質に價格に自信ある新安値品
昭和五年流行界の
中形各種陳列
婦人倶樂部ゆかた　表現ゆかた
昭和調婦女界ゆかた　繪羽模樣ゆかた
リーグ戰ゆかた　外十數種
粹で!!高尙な!!
絽廣帶と單帶陳列　於階上
絽縮紗　絽友禪　銘仙
モス友仙　モス着尺　蚊帳
特賣品　手拭中形六十五錢　ホロかや五十五錢
友仙モスリン一尺九錢
三井呉服店
平町電話　三七　五一八番

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋　山崎合名會社
電話一一〇番

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三（電話六二五番）
華道教授
天水庵　岡田華悅

帽子!!
皆樣の御氣に召す
モダーンな型
スマートな色合
中折
鳥打
子供帽
可愛らしいお子樣方のために
明るい初夏の帽子
平町四丁目
ツルヤ
電一四〇